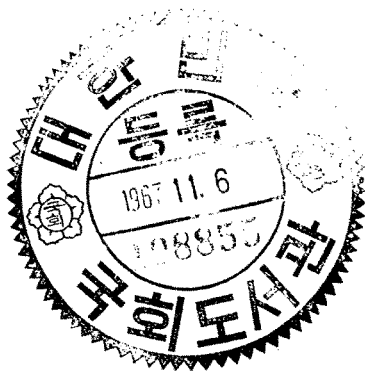


國勢調查員必携

朝鮮總督府



國勢調査ノ趣旨

國勢調査トイフノハ、國家社會ノ實狀ヲ調べ、其ノ國ニ於ケル社會組織ノ内容ト、國民生活ノ實況トヲ審明ニシ、施政ノ基礎ヲ作ルノガ目的デ、ソレガ爲、先ヅ全國一齊ニ一人一人ニ就イテ實地ノ調査ヲ行フノデアリマス。

國家ガ繁榮シ國民ガ幸福ニナルニハ、常ニ時代ニ適應シテ國家ノ制度ヤ、社會ノ組織ヲ整頓シ、行政ノ施設デモ、産業ノ經營デモ、出來得ルダケ無駄ヤ重複ノナイ様ニスルノガ肝要デアリマス。

ソレニ就イテハ先ヅ國勢ノ基本ヲ正確ニ知ル爲ニ國勢調査ヲ行ハナケレバナリマセン。マシテヤ今日ノ様ナ複雑ナ社會ニナリマシテハ今迄ノ様ナ調べ方デハ不十分デアリマス。カラスコデ今回ノ様ナ國勢調査ノ方法ニ依ラナケレバナラヌノデアリマス。殊ニ世界五大強國ノ一トシテ列國ト肩ヲ並ベテ行クニハ、豫メ國勢ノ基本ニナルモノヲ正確ニ調べ、ソノ正確ナル統計ニ依ツテアラユル國家ノ施設ヲ行ハナケレバナリマセン、ソレデ此ノ調査ヲ實行スルノデアリマス。

國勢調査員ノ特ニ注意スベキ事項

國勢調査ノ結果ガ良好デアルト否トハ、各世帯カラ提出スル申告書ノ記入ガ正確デアルト否トニ由ル
ノデアリマス。

申告書ノ記入ヲ正確ニスルニハ、先ヅ申告義務者ヲシテ調査ノ趣旨ヲ能ク了解セシメ進ンデ本事業ニ
協力サセル様ニスルコトガ必要デアリマス。

而シテ國勢調査員ハ、申告書ノ記入ヲ正確ニシ、申告義務者ヲシテ本事業ニ協力サセル爲、特ニ朝鮮
總督カラ任命サレタノデアリマスカラ、能ク本調査ノ趣旨ノアル所ヲ了解シ、且其ノ任務ノ重大ニシ
テ名譽ナモノデアルコトヲ會得シ、豫メ國勢調査ニ關スル諸規程其ノ他注意等ヲ熟讀翫味シテ、其ノ
指示スル所ニ從ヒ勤勉忠實ニ職務ヲ遂行サレタイノデアリマス。

一、準備調査前ニ豫メ擔當調査區内ノ實況ヲ綿密ニ調べ巡回ノ順路ヲ定メ置
クコト。

二、申告書用紙配付ノ際記入方法ヲ能ク説明スルコト。

三、質問ヲ受ケタトキハ懇切ニ答ヘルコト。

四、申告書記入ノ代筆ヲ依頼サレタトキハ快ク應ズルコト。

五、關係ノナイ質問ヲ發シテ疑惑ヲ招キ又ハ感情ヲ害スル様ナコトノナイ様
ニ注意スルコト。

六、應接ヲ丁寧ニシテ申告義務者ニ不快ノ念ヲ懷カセナイ様ニ努メルコト。
七、申告書蒐集ノ際記入ノ事項ヲ嚴密ニ檢査スルコト。

國勢調査員心得

朝鮮總督府訓令第十三號

國勢調査員心得左ノ通定ム

昭和五年三月二十二日

朝鮮總督 子爵 齋藤 實

國勢調査員心得

第一章 總 則

第一條 國勢調査員ハ府尹又ハ面長ノ指揮監督ヲ承ケ調査區ヲ擔當シ左ノ職務ヲ行フ

一 準備調査

二 申告書用紙ノ配付

三 申告書ノ蒐集及檢査

四 申告書ノ整理及調査書類ノ提出^의

五 以上ノ附帶事務^의

第二條 國勢調査員ハ世帯ニ就キ職務ヲ執行スル際徽章ヲ佩用スベシ^{을 할 함이可함}

第三條 國勢調査員ハ世帯ニ就キ職務ヲ執行スル際國勢調査員必携及照査表ヲ携帶スベシ^{를 함이可함}

第四條 國勢調査員ハ世帯ニ就キ職務ヲ執行スル際必要ナキ事項ヲ質問スベカラズ^{을 함이不可함}

第五條 國勢調査員ハ職務執行中知得シタル事項ヲ故ナク他ニ漏洩スベカラズ^{을 함이不可함}

第六條 國勢調査員ハ擔當調査區ト隣接調査區トノ間ニ重複、脱漏又ハ所屬不明ノ地域アリト認メタ^{을 함이可함}

ルトキハ直ニ其ノ旨ヲ府尹又ハ面長ニ申出デ指揮ヲ請フベシ^{時는即時 를 함이可함}

第七條 國勢調査員ハ職務執行ニ便スル爲豫メ區内巡回ノ順路ヲ定メ置キ準備調査、申告書用紙^{을 함이可함}

配付及申告書蒐集ノ際ハ總テ此ノ順路ニ依ルベシ^{의 함이可함}

第八條 國勢調査員ハ申告書及照査表提出後ニ於テモ府尹又ハ面長ヨリ説明又ハ再調査ヲ命セラレタ^{을 함이可함}

ルトキハ調査ノ上速ニ答申スベシ^{時는 한後 히 함이可함}

第九條 本令中府尹又ハ面長ノ行フ職務ハ道知事ノ直接管掌スル水面ニ在リテハ道知事之ヲ行フ^{을 함이可함}

第一章 準備調査

第十條 國勢調査員ハ府尹又ハ面長ノ定メタル期間内ニ準備調査トシテ左ノ事務ヲ行フベシ

一 各住居ニ就キ世帯ノ數ヲ調査シ各世帯ニ世帯番號札ヲ貼付スルコト

二 世帯所在地ノ町洞里名及地番號ヲ調査スルコト

三 準世帯ニ在リテハ其ノ種類及名稱ヲ調査スルコト

四 各世帯ノ申告義務者ノ氏名又ハ姓名ヲ調査スルコト

五 各世帯ノ人員概數ヲ調査スルコト

前項第一號ノ世帯番號札ハ府尹又ハ面長ヨリ之ヲ交付セラレベシ

世帯員不在ノ爲第一項ノ調査ヲ爲スコト能ハザルトキハ重ネテ巡回シ又ハ近隣ノ者ニ質問シ之ヲ調査スベシ

第十一條 世帯番號札ヲ貼付スル場合ニ於テハ左ノ點ニ注意スルコトヲ要ス

一 普通ノ家屋ハ勿論社寺、學校、工場、倉庫、物置等ノ建物、舟筏其ノ他ノ掛小屋、葭簀張、天

幕、土幕等臨時ノ設備ト雖其ノ内ニ世帯アルトキハ世帯毎ニ悉ク世帯番號札ヲ貼付スルコト

二 一棟ノ家屋内ニ數箇ノ世帯アルトキハ一世帯毎ニ世帯番號札ヲ貼付シ數棟又ハ母屋及附屬建物

ニ跨リ一世帯アルトキハ其ノ主タル住居ニ世帯番號札ヲ貼付スルコト

三 舟筏ハ十月一日以後迄繫留スベキ見込アルモノニ限り世帯番號札ヲ貼附スルコト

第十二條 國勢調査員一世帯ニ就キ第十條ノ調査ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ結果ヲ照査表(附録様式)

第一欄乃至第五欄ニ記入スベシ

前項ノ記入ヲ爲スコト能ハズ再調査ヲ要スルモノアルトキハ備考欄ニ「要再調」ト記入シ置キ重テ巡回シ調査ノ結果ヲ當該欄ニ記入シタル上備考欄「要再調」ノ文字ヲ抹消スベシ

準備調査後照査表記入ノ事項ニ異動又ハ誤謬アルコトヲ知リタルトキハ其ノ都度訂正加除スベシ

普通家屋以外ノ住居ノ種類其ノ他必要ト認メタル事項ハ之ヲ備考欄ニ記入スベシ

第十三條 國勢調査員準備調査ヲ終リタルトキハ府尹又ハ面長ノ定メタル期限迄ニ照査表ヲ府尹又ハ

面長ニ提示シテ其ノ検査ヲ受クベシ

第十四條 前條ノ検査ノ結果不備ノ點アルトキハ府尹又ハ面長ヨリ照査表記入ノ訂正加除又ハ再調査

ヲ命ゼラルベシ

第三章 申告書用紙ノ配付

第十五條 申告書用紙ハ照査表記入ノ世帯ニ配付スベキ枚數ニ百分ノ十ノ豫備ヲ加ヘテ府尹又ハ面長

ヨリ交付セラルベシ

第十六條 國勢調査員ハ申告書用紙ノ配付前ニ於テ調査區内ノ世帶數又ハ其ノ人員ニ異動アリタル爲用紙不足スベシト認メタルトキハ府尹又ハ面長ニ照査表ヲ提示シ其ノ補給ヲ受クベシ

第十七條 國勢調査員ハ府尹又ハ面長ノ定メタル期日ニ於テ擔當調査區内ノ各世帶ニ申告書用紙ヲ配付スベシ

申告義務者又ハ之ニ代ルベキ者共ニ不在ノ世帶ニハ重ネテ巡回シ又ハ便宜近隣ノ申告義務者ニ委託シテ配付スルコトヲ得

第十八條 各世帶ニ配付スベキ申告書用紙ノ數ハ現在員十人以内ノ世帶ハ一枚トシ十人ヲ超ユル毎ニ一枚ヲ加フ但シ必要ト認メタルトキハ見込ノ枚數ヲ配付スルコトヲ得

第十九條 國勢調査員ハ申告書用紙配付前豫メ照査表ニ依リ用紙指定ノ箇所ニ町洞里名、地番號及世帶番號、準世帶ニ在リテハ其ノ種類及名稱ヲ記入シ置キ配付ノ際更ニ相違ナキヤヲ確ムベシ

第二十條 國勢調査員ハ申告書用紙配付ノ際各世帶ノ申告義務者ニ對シ十月一日午前八時迄ニ申告書ヲ作成スベキ旨ヲ告グベシ申告義務者以外ノ者ニ配付シタル場合亦同ジ

國勢調査員必要ト認メタルトキハ申告書ノ記入方ヲ懇切ニ指示スベシ

第二十一條 國勢調査員申告書用紙配付ノ際世帶ニ異動アルコトヲ知リタルトキハ直ニ左ノ各號ニ依

リ處理スベシ但シ舟筏ニ在リテハ十月一日以後迄繫留スベキモノニ限ル

一 照査表記載ノ世帯擔當調査區内又ハ區外ニ移轉シタルトキハ世帯番號札及照査表ノ記入ヲ讀ミ得ル様抹消シ照査表備考欄ニ區内ニ在リテハ「區内移轉」區外ニ在リテハ單ニ「移轉」ト記入スル事
コト

二 照査表ニ記載ナキ世帯又ハ區内移轉ノ世帯アリタルトキハ新ニ世帯番號札ノ貼附及照査表ノ記入ヲ爲シ當該世帯ニ申告書用紙ヲ配付スルコト但シ此ノ場合ニハ照査表備考欄ニ「追加」ト記入スルコト

第四章 申告書ノ蒐集及檢査

第二十二條 國勢調査員ハ府尹又ハ面長ノ定メタル期日ニ擔當調査區ノ各世帯ニ就キ漏ナク申告書ヲ蒐集スベシ

第二十三條 國勢調査員ハ申告書蒐集ノ際世帯又ハ人員ノ增加其ノ他ノ必要ニ應ズル爲豫備ノ申告書用紙ヲ携帶スベシ

第二十四條 國勢調査員申告書蒐集ノ際世帯ニ異動アルコトヲ知リタルトキ又ハ新ニ世帯ヲ發見シタルトキハ第二十條第二項及第二十一條ノ規定ニ準ジテ之ヲ處理シ申告義務者ヲシテ直ニ申告書ノ記

入ヲ爲サシメ之ヲ蒐集スベシ

第二十五條 國勢調査員ハ申告書蒐集ノ際世帯人員ノ増加又ハ申告書用紙ノ毀損若ハ紛失ノ爲申告書

用紙ノ追給ヲ要スルモノアルトキハ携帶セル豫備ノ申告書用紙ヲ申告義務者ニ交付シ直ニ記入ヲ爲
サシメ之ヲ蒐集スベシ

第二十六條 申告義務者ニシテ申告書ノ記入ヲ爲スコト能ハザル者アルトキハ國勢調査員ハ申告書蒐

集ノ際口頭ヲ以テ申告セシメ申告義務者ニ代リテ記入ヲ爲シ讀ミ聞カセタル上之ヲ蒐集スベシ此ノ
場合ハ申告書指定ノ箇所ニ國勢調査員ノ氏名又ハ姓名ヲ記入スベシ

第二十七條 國勢調査員申告書ヲ受取リタルトキハ直ニ左ノ各號ニ依リ處理スベシ

一 申告書ノ世帯番號、世帯ノ所在地、世帯主又ハ世帯ノ管理者ノ氏名又ハ姓名、準世帯ノ種類及
名稱ヲ照査表ト對照シ相違ノ點ヲ發見シタルトキハ事實ニ依リテ之ヲ訂正スルコト

二 申告書各項ノ記入ヲ檢査シ重複、脱漏又ハ誤謬アルトキハ申告義務者ヲシテ訂正セシメ又ハ質
問ノ上之ヲ訂正スルコト

三 申告書記入ノ文字不明ナルトキ又ハ訂正ノ爲不明ト爲リタルトキハ申告義務者ニ重ネテ申告書
用紙ヲ交付シ更ニ申告書ヲ作成セシメ又ハ自ラ淨寫スルコト但シ淨寫ノ場合ニ於テハ申告書指定

ノ箇所ニ國勢調査員ノ氏名又ハ姓名ヲ記入シ原書左上部ニ「淨寫濟」ト附記シ保存スベシ

四 一通二枚以上ノ申告書ニハ其ノ枚數及號數ヲ指定ノ箇所ニ記入スルコト

第二十八條 國勢調査員擔當調査區内ノ申告書ノ蒐集ヲ終リタルトキハ更ニ申告書ノ記入事項ヲ檢査

シ訂正ヲ要スルモノアルトキハ前條第二號ニ準ジ訂正シタル後左ノ手續ヲ爲スベシ

一 申告書記入ノ男女別人員ヲ計ヘ日本人ニ在リテハ内地人、朝鮮人、其ノ他ニ區別シ外國人ニ在

リテハ支那人、其ノ他ニ區別シ世帯人員欄ニ之ガ記入ヲ爲スコト但シ一通二枚以上ノ申告書ニ付

テハ最初ノ用紙ニ之ヲ記入スベシ

二 照査表記入ノ順序ニ依リ申告書指定ノ箇所及照査表第六欄ニ申告書通シ番號ヲ記入スルコト

三 申告書ニ記入ノ申告書枚數ヲ照査表第七欄ニ記入スルコト

四 申告書世帯人員欄ノ記入ニ依リ照査表第八欄ノ記入ヲ爲スコト

五 照査表第五欄、第七欄及第八欄ノ各合計ヲ算出記入シ檢算スルコト但シ一通二枚以上ナルトキ

ハ一枚毎ニ小計ヲ記入シ最終ノ用紙ニ合計ヲ算出記入スベシ

六 國勢調査員申告書ヲ淨寫シタルトキハ照査表備考欄ニ「淨寫」ト記入スルコト

第二十九條 國勢調査員前條ノ手續ヲ終リタルトハ照査表ト各申告書トヲ對照シテ符合スルヤ否ヤヲ

檢査 함이可함
스베シ

第三十條 國勢調査員前條ノ手續ヲ終リタルトキハ申告書指定ノ箇所ニ捺印スベシ

第三十一條 國勢調査員申告書ノ蒐集ヲ終リタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ府尹又ハ面長ニ報告スベシ

第五章 申告書ノ整理及調査書類ノ提出

第三十二條 國勢調査員前條ノ手續ヲ終リタルトキハ照査表寫ヲ作成シ照査表及照査表寫指定ノ箇

所ニ日附ヲ記入シ記名捺印スベシ

第三十三條 國勢調査員ハ申告書ヲ其ノ通シ番號順ニ重ネテ一括シ照査表及照査表寫ト共ニ府尹又ハ

面長ノ定メタル期限迄ニ之ヲ府尹又ハ面長ニ提出スベシ

淨寫濟ノ原書ハ別ニ一括シテ前項ノ書類ト共ニ之ヲ府尹又ハ面長ニ提出スベシ

| 第一欄 | 第二欄 | 第三欄 | 第四欄 | 第五欄 | 第六欄 | 第七欄 | 第八欄 | | | | 備考 | | | | |
|-----|---------------------------------------|-------|------------------|-----|-----|-----|-----|---|---|-----|----|---|---|---|-----|
| 世帯 | 世帯所在地 | 準世帯ノ | 世帯主又ハ世帯ノ管理者ノ姓名又ハ | 人員 | 申告書 | 申告書 | 日 | 本 | 人 | 外國人 | 合計 | 男 | 女 | 計 | |
| 番號 | (町洞里地名番號) | 種類及名稱 | 姓名又ハ | 概數 | 番號 | 枚數 | | | | | | | | | 内地人 |
| 號 | 號 | 號 | 號 | 號 | 號 | 號 | 號 | 號 | 號 | 號 | 號 | 號 | 號 | 號 | 號 |
| | | | 裏三十行 | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 小計 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 一通一枚ナルトキハ合計ノミヲ記入シト入シ最終ノ用紙ニ合計ヲ算出記入スルコト | | | | | | | | | | | | | | |

昭和五年 月 日

國勢調査員

府尹又ハ
面長檢印

(道知事ノ直接管掌スル
水面ニ在リテハ道知事
檢印スルモノトス)

(例 入 記)

照 査 表

調査區第一號區域
吐月里ノ内吐月川以西及龍池里ノ内上南面ヨリ鎮海ニ至ル三等道路以南

道 府郡島 面
慶尙南道 昌原郡 上南面
國勢調査員 李 元 圭

| 第一欄 | 第二欄 | 第三欄 | 第四欄 | 第五欄 | 第六欄 | 第七欄 | 第八欄 | | | | 第九欄 | | |
|-----|------------|-------------------|--------------------|-----------|------------|-----|-------|-------|-----|-----|------|------|-----|
| 世帶 | 世帶所在地 | 準世帶ノ種類及名稱 | 世帶主又ハ世帶ノ管理者ノ氏名又ハ姓名 | 人員申告書申告概數 | 通シ書號枚數 | 號 | 世 帶 人 | | | | 合 計 | 備 考 | |
| 番號 | (町洞里名) 地番號 | | | | | | 日 本 人 | 外 國 人 | 支那人 | 其ノ他 | 男 | 女 | |
| 二號 | 吐月里二番地 | | 馬場 義雄 一 | 一 | 一號二枚 | 五 | 男 三 | 女 二 | 男 二 | 女 一 | 男 七 | 女 四 | 移轉 |
| 三號 | 吐月里四番地 | | 鄭 文 浩 一 | 四 | 二號一枚 | | 男 二 | 女 二 | 男 二 | 女 三 | 男 二 | 女 三 | 妻持調 |
| 四號 | 吐月里六番地 | | 崔 東 善 一 | 六 | 三號一枚 | | 男 二 | 女 三 | 男 二 | 女 一 | 男 四 | 女 三 | 船 |
| 五號 | 吐月里一〇番地 | | 張 德 鎭 一 | 二 | 四號一枚 | | 男 一 | 女 一 | 男 一 | 女 一 | 男 一 | 女 一 | |
| 六號 | 吐月里一二番地 | | 宋 炳 祚 一 | 七 | 五號一枚 | | 男 四 | 女 三 | 男 四 | 女 三 | 男 四 | 女 三 | |
| 七號 | 吐月里一二番地 | 旅館吐月館 | 宋 炳 祚 一 | 三 | 六號二枚 | 二 | 男 八 | 女 二 | 男 一 | 女 三 | 男 一四 | 女 二一 | 淨寫 |
| 八號 | 吐月里一四番地 | | 李 在 善 一 | 四 | 七號一枚 | | 男 一 | 女 三 | 男 一 | 女 一 | 男 一 | 女 三 | |
| 九號 | 吐月里一五番地 | | 尹 永 植 一 | 三 | 八號一枚 | | 男 二 | 女 一 | 男 二 | 女 一 | 男 二 | 女 一 | |
| 一〇號 | 吐月里三番地 | 寄宿舍公立吐月 中學校寄宿舍 | 池田正次郎 六 | 四 | 九號七枚 四八 | | 男 一三 | 女 一 | 男 一 | 女 一 | 男 六一 | 女 一六 | |
| 一一號 | 吐月里一三番地 | | 金 元 文 一 | 一〇 | 一〇號一枚 | | 男 一 | 女 一 | 男 一 | 女 一 | 男 一 | 女 一 | 倉庫内 |
| 一二號 | 吐月里一七番地 | | 趙 大 淳 一 | 六 | 一一號一枚 | | 男 三 | 女 二 | 男 三 | 女 二 | 男 三 | 女 二 | |

世帯番號札様式

| |
|---|
| <p>府面</p> <p style="margin-top: 20px;">世帯主又ハ 世帯ノ管理者</p> <p style="margin-top: 20px;">第 調査區 世帯第 號</p> <p style="margin-top: 20px;">國勢調査員</p> |
|---|

申告書記入心得

世 帯

- 一 世帯ハ普通世帯ト準世帯ノ二種トス（昭和五年朝鮮國勢調査施行規則第二條第二項參照）
- 二 普通世帯トハ住居及家計ヲ共ニスル者ノ集リヲ謂フ（昭和五年朝鮮國勢調査施行規則第二條第三項參照）
- 三 一人ニシテ住居ヲ有シ家計ヲ立ツル者亦一ノ普通世帯トス（昭和五年朝鮮國勢調査施行規則第二條第三項參照）
- 四 家計ヲ共ニスルモ別ニ住居ヲ有スル者ハ住居ヲ異ニスル毎ニ各一ノ普通世帯トス（昭和五年朝鮮國勢調査施行規則第二

（昭和五年朝鮮國勢調査施行規則第二

條第四
項參照

五 住居ヲ共ニスルモ別ニ家計ヲ立ツル者ハ家計ヲ異ニスル毎ニ各一ノ普通世帶トス
（昭和五年朝鮮國勢調査施行規則第二條第四項參照）

六 準世帶トハ寄宿舎、病院、旅店、下宿屋、合宿所、船舶等ニ在ル家計ヲ共ニセザル者ノ集リヲ謂

フ（昭和五年朝鮮國勢調査施行規則第二條第五項參照）

七 旅店、下宿屋等ニ於ケル營業ノ主人及其ノ家族、雇人等ノ集リハ一ノ普通世帶トシ旅客、下宿人等ノ集リハ一ノ準世帶トス

八 旅店、下宿屋等ノ營業主ハ準世帶ノ申告義務者ナルモ準世帶員ニハアラズ

九 旅店、下宿屋等ニ在ルト否トニ拘ラズ間借自炊ヲナス者ハ別ノ普通世帶トス

十 素人下宿ノ下宿人ハ同居人トスルコト

十一 寄宿舎、病院等ノ如キ準世帶ノ構内又ハ建物内ニ管理者、事務員、門番等ノ普通世帶アルトキ

ハ之ヲ準世帶ト混同セザルコト

十二 家計ヲ共ニスル者ノミ乘リ組ミタル船舶、舟筏ハ普通世帶トシ準世帶トハセザルコト

十三 起臥、飲食ノ設備ナキ船舶ニハ世帶ヲ認メズ

申告義務者

一 申告義務者トハ普通世帯ニアリテハ世帯主、世帯主不在ノ場合ニハ事實上之ニ代ルベキ者ヲ謂ヒ

準世帯ニアリテハ之ヲ管理スル者ヲ謂フ

數人共同ノ合宿所ニアリテハ合宿者ノ選定シタル總代又ハ國勢調査員ノ指定シタル者ヲ申告義務者トス

二 世帯主トハ男女ヲ問ハズ實際世帯ヲ主宰スル者ヲ謂ヒ多クハ戶主ナルモ必ズシモ戶主ニ限ラズ

準世帯ノ管理者トハ寄宿舎ノ舍監又ハ幹事、病院ノ院長、旅店、下宿屋ノ主人又ハ主婦、船舶ノ船長等ノ如ク其ノ準世帯ヲ管理スル者ヲ謂フ

三 數人共同ノ合宿所等ニ對シ申告義務者ヲ指定スル場合ニハ調査ノ時期ニ現在シ成ルベク同宿者ノ身上ニ通ジタル者ヲ指定スルコト

記入ノ注意

- 一 文字ハ墨又ハ黒色インキヲ用ヒ楷書ニテ明瞭ニ記入スルコト
- 二 文字ハ調査ノ便宜上國語ニテ書キ謄文又ハ外國語ニテ書カザルコト

三 同一ノ記入事項한가イクツアツテモ同、同上又ハ同右한ト記入한セズ各一人毎ニ繰返シ明瞭ニ記入한スルコト

四 記入事項ノ誤의ヲ發見한シテ之ヲ訂正한スル場合ニハ한〔 〕ヲ引イテ抹消シ其ノ右側ニ正한シキ記入ヲ爲ス한コト

五 記入事項中調査ヲ重ヌルモ尙不明ナルトキハ「不詳」ト記入スルコト

欄外ノ記入

一 國勢調査員ハ申告書ヲ各世帯ニ配付前照査表ニ依リ欄外右側ノ當該箇所ニ左ノ各號ヲ記入スルコト한ト한(國勢調査員心得第十九條參照)

一 町洞里名

二 地番號

三 世帯番號

準世帯ニアリテハ其ノ種類及名稱ヲ記入スルコト

二 調査區番號、道府郡島面名ハ府尹又ハ面長之ヲ記入スルモノトス

三 世帯人員欄ハ申告書ノ蒐集ヲ終リタル後精査ノ上記入スルモノトス한(國勢調査員心得第二十八條第一號參照)

四 申告書通シ番號ハ申告書蒐集後照査表ニ依リ記入スルコト

申告書二枚以上ニ互ルトキハ蒐集ノ際何枚ノ内第一號、第二號、第三號ノ如ク記入スルコト

欄内記入ノ範圍

申告書ニ記入セラルベキ者ハ左記(イ)、(ロ)、(ハ)ニ該當スル者トシ之ニ該當セザル者ハ假令家族タリト雖

モ一切記入セザルコト

(イ) 調査ノ時期、十月一日午前零時即チ九月三十日ヨリ十月一日ニ移ル夜半ニ世帯内ニ現在シタル者ハ家族デアルト否トヲ問ハズ各々調査事項ヲ漏レナク記入スルコト從ヒテ調査ノ時期前ニ生

レタル者及世帯ニ入りタル者、調査ノ時期後ニ死亡シタル者及世帯ヲ去リタル者ハ之ヲ記入シ調査ノ時期前死亡シタル者及世帯ヲ去リタル者、調査ノ時期後ニ生レタル者及世帯ニ入りタル者ハ

此ヲ記入セザルコト

(ロ) 十月一日午前零時ニ偶然ハ屋外ニ在リ又ハ夜業、夜勤、宿直等ノ爲世帯ナキ場所ニ在ルモ十月一日中ニ自分ノ世帯ニ歸ルベキ者ハ其ノ世帯ニ現在シタルモノトシテ記入スルコト

例ハ

散歩、買物、訪問等ノ爲屋外ニテ調査ノ時期ヲ經過シタル者

巡察員、監視員、郵便集配人、汽車、電車、又ハ自動車ノ車掌、運轉手、緣日、露店又ハ夜店ノ商人、飛脚、使丁、車夫、馬丁、擔軍、漁夫等ニシテ夜間屋外ニ於ケル執務、營業ノ爲調査ノ時期ヲ經過シタル者

居殘、夜勤、徹夜等ノ爲世帯ナキ官公署、會社、事務所、工場、店舖、詰所、番所、見張所、劇場、俱樂部等ニ在リシ者

(ハ) 十月一日午前零時ニ汽車、電車、世帯ナキ舟筏又ハ陸路ノ旅行中ニシテ旅店其ノ他ノ世帯ニ宿泊セザルコト豫メ明ナル者ハ最後ニ出發セシ世帯ニ現在シタルモノトシテ記入シ、又豫メ明ナラザル者ハ十月一日午前八時迄ニ始メテ到着セシ世帯ニ現在シタル者トシテ記入スルコト

申告書各欄ノ記入方

氏名又ハ姓名

「記入ノ範圍」イ、ロ、ハニ該當スル者ノ氏名又ハ姓名ハ左ノ順序ニ依リ記入スルコト

一 普通世帯ニ在リテハ世帯主ヲ初筆ニ次ニ配偶者ヲ記入シ家族ニ付テハ世帯主トノ續柄ヲ成ルベク

左記親等表ノ番號順ニ依リ記入シ夫婦ハ列ベテ記入スルコト

雇人、來客等ハ其ノ次ニ記入スルコト

二 寄宿舎ニ在リテハ先ニ寄宿人次ニ當直ノ舎監、小使等ノ順ニ記入シ、病院ニ在リテハ先ニ患者、附添人、次ニ當直ノ醫師、事務員、看護婦等ノ順ニ記入シ、旅店、下宿屋ニ在リテハ宿泊人、下宿人ノミヲ記入スルコト

準世帯ノ船舶ニ在リテハ先ニ船客次ニ船長、船員等ノ順ニ記入スルコト

三 誕生後未ダ命名セザル者ハ「名ツケズ」ト記入スルコト

四 氏名又ハ姓名ノ明ナラザル者ハ通稱又ハ幼名等ヲ記入スルコト

世帯ニ於ケル地位

(一) 普通世帯ニ在リテハ世帯主ハ「主人」、世帯主ノ配偶者ハ「妻」又ハ「夫」直系尊屬ハ「父」、「母」、「祖父」、「祖母」直系卑屬及其ノ配偶者ハ「長男」、「長男ノ妻」、「長女」、「二男」其ノ他ハ「兄」、「弟」、「姉」、「妹」、「伯父」、「伯母」、「從兄」、「從姉」ノ如ク世帯主ニ對スル續柄ヲ記入シ其ノ配偶ハ各々其ノ妻又ハ夫クルコトヲ記入シ同居者ハ「同居人」、雇人ハ「職業雇人」、「家事雇人」ニ區別シ(職業雇人トハ吳服商ノ番頭、料理店ノ仲居、農家ノ作男等ノ如ク世帯主又ハ世帯員ノ職業上ニ使用セラルル雇人ヲ謂ヒ家事雇人トハ子守、乳母、下女、下男等ノ如ク家事向ニノミ使用セラルル雇人ヲ謂フ)

來客ハ親族ノ續柄アル者ト雖、「來客」ト記入スルコト

(二) 準世帯ニ在リテハ寄宿舎ノ寄宿人、病院ノ患者、旅店ノ旅客、下宿屋ノ下宿人、船舶ノ船客等ハ

「寄宿人」、「患者」、「宿泊人」、「下宿人」、「船客」等ト記入スルコト

準世帯員タル役員、事務員、雇人等ハ「監督」、「書記」、「事務員」、「門番」、「看護婦」、「船長」、「船員」等各其ノ名稱ヲ記入スルコト

男 女 ノ 別

男ハ「男」、女ハ「女」ト記入スルコト

出生ノ年月日

一 實際誕生ノ年月日ヲ記入スルコト

二 誕生月日ノ不明ナル者ハ月又ハ日ノ上ニ「不明」ト記入シ、誕生ノ年モ不明ナル者ハ推定ノ年齢ヲ

「凡何歳」ト記入スルコト

三 併合前ニ生レタル朝鮮人ニ在リテハ舊韓國時代ノ年月日ヲ記入スルコトヲ得

四 外國人ハ其ノ本國ノ曆ニ依ル年月日ヲ記入スルコトヲ得

配偶ノ關係

一 「未婚」、「有配」、「死別」、「離別」ニ區別シテ記入スルコト但シ未婚ハ「未」、有配ハ「有」ト記入スルコト

二 未婚者トハ未ダ一度モ婚姻セザル男女ニシテ有配トハ現ニ妻アル男、夫アル女ヲ謂ヒ、死別トハ配偶者ニ死別シテ現ニ獨身ノ者ヲ謂ヒ、離別トハ配偶者ト離別シテ現ニ獨身ノ者ヲ謂フ

死別及離別ハ最近ノ關係ニ依リ記入シ例ヘバ夫ニ死別シタル寡婦ガ再嫁シタル後更ニ離別シタルトキハ其ノ配偶ノ關係ハ死別ニアズシテ現在ノ事實タル離別トス

三 本欄ノ記入ハ實際ノ狀態ニ依ルモノニシテ必ズシモ戶籍ニ依ラザルコトヲ得

職業

一 職業ハ農、工、商等ノ如キ總稱又ハ會社員、職工等ノ如キ略稱ニ依ラズ如何ナル種類、性質ノ職業ナルカヲ何人ニモ分リ易キ様之ガ細別ヲ記入シ尙加工原料品、取扱品又ハ生産品ヲモ示シ且其ノ職業ヲ主宰經營スル者ナルカ主宰者、經營者ニ使用サレ事務、技術ニ從事スル者ナルカ又ハ勞務ニ從事スルモノナルカヲ分リ易ク日常ノ稱呼ニ基キ詳細ニ左記ノ如ク記入スルコト

小作米作雇主

自作兼小作米作男

自作麥作手傳

養豚業飼養夫

養蠶巡回教師

薪採取業單獨

ト ロ ール フ ン 漁業船夫

海苔採取業手傳

炭鑛業採炭夫

刃物鍛冶業徒弟

瓦製造業型職

瓶素燒職雇主

煙管製造業磨工

ボ ール ド ナ ツ ト 製造業平壤鐵工所旋盤工

草鞋製造業手傳

表具師單獨

竹籠細工職小僧

菓子製造業注文取

蒔繪職雇主

燒酎釀造業手傳

下駄製造業丁稚

船大工單獨

左官職職人

印刷業植字工

米穀小賣商配達人

果物行商單獨

酒小賣商御用聞

菓子卸賣商小僧

煙草小賣商手傳

石炭卸賣商雇主

吳服小賣商手代

洋品小賣商店員

大山吳服店玩具部店員

新聞取次販賣業集金人

乾鞋都賣業店童

綢緞散賣業雇主

旅人宿風呂番

カフエー升 罏 子コック

賁物業單獨

京城醫院看護婦

洋服裁縫業裁斷工

二 工業ナル인 지カ商業ナル인 지カ紛민 지ハシ안 은キ을 하 지記入말 고ヲ爲サズ製造業、販賣業中 의ノ何者 인レナルカヲ明白 히ニ區分하 야シ記入할スル

事
コト但シ製造ト販賣トヲ兼スルモノハ主タルモノニ依リ例ヘバ自己ノ販賣店ヲ有シテ自己製品ノ大部分ヲ販賣スルモノ又ハ販賣品ノ内若干ヲ自製又ハ加工スルニ過ギザルモノハ販賣ヲ主トスルモノトシ米屋、靴屋、肉屋、菓子屋、下駄屋等ノ大部分ハ販賣ヲ主トスルモノノ例トス

三 官公署ニ勤務スルモノハ其ノ官職名及所屬官公署部局課係名ヲ左記ノ如ク記入スルコト

休職官吏ニ在リテハ其ノ官名ヲ記入スルコト

朝鮮總督府事務官內務局地方課勤務

朝鮮總督府技手內務局土木課裡里土木出張所勤務

朝鮮總督府遞信技師遞信局工務課勤務

朝鮮總督府遞信書記西大門郵便局長

京城中央電話局電話事務員

釜山郵便局技工工事課試驗係勤務

朝鮮總督府鐵道局書記經理課會計係主任

鐵道局驛手京城驛勤務

朝鮮總督府鐵道局技手清津保線區區長

朝鮮總督府郡屬麗水郡財務係主任

休職朝鮮總督府郡守

四 陸海軍軍人ニ在リテハ現役ノ者ニ限リ其ノ官職名ヲ記入スルコト

五 事業主ニ非ズシテ俸給、手當、賃銀其ノ他ノ報酬ヲ得テ勤務スル者ハ其ノ職名及營業又ハ事業ノ種類、目的ヲ明ニスベキ細目ノ稱呼ヲ記入シ、生産品、加工原料品又ハ取扱品ヲモ示スコト

營業又ハ事業ガ二以上ノ部局ニ分レテ居ルトキハ自己ノ屬スル部局及課係名ト其ノ種類、目的トヲ左記ノ如ク記入スルコト

漢城銀行大邱支店預金係行員

金錢貸付業營水合名會社貸付係書記

内外土地株式會社金融部調査係事務員

高陽運輸株式會社薪炭委託販賣部外交員

染料製造業鮮滿染料工業株式會社小使

六 自己ノ職業ヲ營ム爲雇人ヲ使用スル者ハ其ノ職業上ノ地位ヲ「雇主」トシ雇人ヲ家事上ノミニ使
用スル場合ハ雇主トシテ記入セズ妻、子女、父母其ノ他ノ家族ノ繼續的手傳ヲ受ケテ自己ノ職業ヲ

營ム者ハ其ノ職業上ノ地位ハ「業主」トシ左記ノ如ク記入スルコト

米穀小賣商雇主

洋傘製造業業主

船大工職雇主

賣藥小賣商業主

七 人ニ雇ハレズ又雇人ヲ使用セズ家族ソ手傳モナクシテ一人デ自己ノ職業ヲ營ム者ハ其ノ職業上ノ

地位ハ「單獨」トシ左記ノ如ク記入スルコト

植木職單獨

表具師單獨

下駄製造業單獨

魚行商單獨

八 妻、子女、父母其ノ他ノ家族ニシテ世帯主又ハ他ノ家族ノ職業ヲ繼續的ニ手傳フ者ノ職業上ノ地

位ハ手傳トシ左記ノ如ク記入スルコト

煙草小賣商手傳

小作米作手傳

菓子小賣商手傳

旅人宿手傳

典當舖手傳

乾鞋都賣業手傳

一時的ニ世帶主又ハ他ノ家族ノ職業ノ補助ヲ爲スノミニテ職業アルモノトハセザルコト

九 農作ニ從事スル者ハ自作、小作、自作兼小作ノ別ヲ左記ノ如ク附記スルコト

自作米作雇主

小作米作手傳

自作兼小作麥作作女

十 家事ノ用務ノ爲ニ使ハレル者ハ「女中」、「子守」、「乳母」、「抱運轉手」、「抱車夫」等ノ如ク用務ノ

種類ヲ記入スルコト

十一 季節ヲ追フテ職業ヲ變更スル者ハ調査ノ時ニ從事セル職業及職業上ノ地位ヲ記入スルコト

十二 調査ノ時ニ偶々休業中ノ者ハ最近ニ就業セル職業及職業上ノ地位ヲ記入スルコト

十三 毎日又ハ隨時ニ雇主ノ變ル所謂日傭勞働者ニシテ職業ノ定ツテ居ル者ハ其ノ職業及職業上ノ地位ヲ、其ノ他ノ者ハ日傭ト記入スルコト

十四 自由勞働者ト稱セラルル大工、左官、植木職等ニハ單獨ニテ營業ヲ爲スモノト親方ニ使用サルルモノトアリ親方ヨリ給料ノ支拂ヲ受ケテ働ク者ハ其ノ親方ノ職人又ハ徒弟トスルコト

十五 從事スル職業ガ二種以上アル者ハ主ナルモノヲ本業トシテ「本業及本業上ノ地位」欄ニ、其ノ次ニ主ナルモノヲ副業トシテ「副業及副業上ノ地位」欄ニ記入スルコト

主ナル職業トハ主トシテ一身ヲ委ネルモノヲ謂ヒ其ノ區別ヲ爲シ難キトキハ收入ノ多キモノヲ謂フ

十六 舊職業ヲ止メ新職業ニ從事センガ爲偶々準備中ノモノハ其ノ準備中ノ職業ヲ記入スルコト

十七 専ラ從事スル職業ナキモ片手間ニ營ム所謂内職アルトキハ之ヲ「副業及副業上ノ地位」欄ニ記入スルコト

原則トシテ副業ヲ記入セル場合ニハ本業ノ記入アルモノナレドモ例外トシテ本業ノ記入ナクシテ副業欄ニ記入ヲナスハ此ノ内職ノ場合トス

十八 職業ナキモ恩給、年金、地代、小作料、家賃、公債利子、預金利子、配當金等ノ如キ收入ニヨリ生計ヲ立ツル者ハ其ノ種類ヲ「恩給」、「年金」、「地代」、「小作料」、「家賃」、「公債利子」、「預金

利子、「配當金」等ト記入スルコト

退職判事、豫後備軍人等ニシテ恩給ニ依リ生計ヲ立ツル者ハ單ニ「恩給」ト記入スルコト

十九 職業ナク公私團體ノ救助ニ依リ生活スル者ハ其ノ旨ヲ、親族、知人等ノ扶助ニ依ルモノハ「扶

助」ト記入スルコト

二十 晝間規則的ニ通學スル者ハ何大學學生、何學校生徒、何書堂學童ト左記ノ如ク記入スルコト病

氣又ハ事故ノ爲調査ノ當時偶々缺席シテ居ル者ハ亦同

四月以降全ク通學セル事實ナキ者ハ學籍ヲ有スルト雖通學者トセザルコト夜間學校ニ通學スル者ニ

シテ職業アル者ハ其ノ職業ヲ職業ナキ者ハ「學生」、「生徒」等ト記入スルコト

京城帝國大學醫學部學生

光州女子高等普通學校生徒

龜城公立農業補習學校生徒

咸興公立商業學校生徒

釜山公立普通學校兒童

上村書堂學童

二十一 職業モ收入モナク且(二十ノ通學者デモナキ者ハ斜線()ヲ引クコト

出生地

- 一 内地ニ於テ誕生シタル者ハ其ノ道府縣名ヲ記入スルコト
- 二 朝鮮ニ於テ誕生シタル者ハ道府郡島面名ヲ記入スルコト
- 府郡島面名ノ不明ナル者ハ道名ノミヲ記入スルコト
- 三 臺灣、樺太、南洋ニ於テ誕生シタル者ハ夫々「臺灣」、「樺太」、「南洋」ト記入スルコト
- 四 外國ニ於テ誕生シタル者ハ其ノ國名及地方名ヲ記入スルコト
- 五 航海中ノ船舶内ニ於テ誕生シタル者ハ「水上」ト記入スルコト

民籍又ハ國籍

- 一 内地人ハ本籍アル道府縣名ヲ記入スルコト
- 二 朝鮮人ハ本籍アル道名ヲ記入スルコト
- 三 臺灣人、樺太人、南洋人ハ夫々「臺灣」、「樺太」、又ハ「南洋」ト記入スルコト
- 四 外國人ハ其ノ國籍ヲ記入スルコト

五 國籍ナキ者ハ斜線()ヲ引クコト

讀ミ書キノ程度

一 假名(片假名ト平假名ヲ含ム)又ハ諺文ヲ讀ミ且書キ得ル者ハ各々ノ欄ニ「得」ト記入スルコト

但シ讀ミ得ルモ書クコトヲ得ザル者又ハ書キ得ルモ讀ムコトヲ得ザル者ハ斜線()ヲ引クコト

二 讀ミ且書キ得ザル者ハ當該欄ニ斜線()ヲ引クコト

國勢調査員由告書検査手續

(昭和五年四月十八日通牒)

申告書ノ検査

國勢調査員ハ申告書ノ正確ヲ期スル爲前後三回之ガ検査ヲ行フコト

第一回検査

國勢調査員ハ各世帯ヨリ申告書ヲ蒐集スル際必ず左ノ順序ニ依リ検査ヲ爲シ重複、脱漏又ハ誤謬アリト認メタルトキハ申告義務者ニ能ク聞キ質シタル上之ヲ訂正セシムルコト(國勢調査員心得第二十七條第二項参照)

申告書蒐集後ニ於テハ世帯移轉等ノ爲質問及再調査ノ困難ヲ來スニ依リ不審ノ點ハ此ノ検査ノ際十分
明ニナシ置クコト

一 記入ノ文字不明ナルモノナキヤ否ヤヲ検査スルコト

二 記入アルベキ欄ニ記入漏ナキヤ否ヤヲ検査スルコト

三 申告書ノ世帯番號、世帯ノ所在地及世帯主又ハ世帯ノ管理者ノ氏名又ハ姓名ヲ照査表第一欄第

二欄及第四欄ノ記載ト對照スルコト

世帯主又ハ世帯ノ管理者ノ氏名又ハ姓名ト氏名又ハ姓名欄初筆ノ氏名又ハ姓名ト對照シ世帯主不

在ノ場合ニハ主人不在ト肩書シアルヤ否ヤヲ検査スルコト

準世帯ノ申告書ナルトキハ右ノ外尙準世帯ノ種類及名稱ヲ照査表第三欄ノ記載ト對照スルコト

四 「氏名又ハ姓名」ハ初筆ヨリ順次ニ之ヲ點檢シ重複、脱漏又ハ誤謬ノ有無ヲ照査表第五欄記入ノ

人員概數ト對照シ検査スルコト

五 「配偶ノ關係」ハ未、有、死別又ハ離別ト記入シアルヤ否ヤヲ検査スルコト

六 「職業」ハ農業ニ屬スルモノニシテ自作、小作、自作兼小作ノ區別ヲ附記セザルモノナキヤ否ヤ

ヲ検査スルコト

第二回 検査

國勢調査員ハ申告書ノ正確ヲ期スル爲擔當調査區内ノ申告書ヲ全部蒐集シタル後左記各號ニ依リ更ニ検査ヲ爲シ補正ヲ要スルモノニ付テハ事實ニ依リ訂正シ重大ナル事項ハ申告義務者ヲシテ之ヲ訂正セシムルコト(國勢調査員心得第二十八條第一項參照)

一 「氏名又ハ姓名」ハ初筆ヨリ順次ニ之ヲ點檢シ重複、脫漏又ハ誤謬ノ有無ヲ検査スルコト

二 「世帯ニ於ケル地位」ハ氏名又ハ姓名ト對照シ尙家族、雇人及來客ノ別ヲ混同シタルモノナキヤ否ヤヲ検査スルコト

三 「男女ノ別」ハ氏名又ハ姓名及世帯ニ於ケル地位ト對照シ検査スルコト

四 「出生ノ年月日」ハ世帯ニ於ケル地位ト對照シ親子、兄弟等ノ間ニ於テ年齢ノ不釣合ガナキヤ否ヤヲ検査スルコト

五 「配偶ノ關係」ハ未、有、死別又ハ離別ト記入シアルヤ否ヤヲ検査スルコト

六 「職業」ノ記入ニシテ其ノ職業ノ種類性質ヲ明示セザルモノ例ヘバ農業、工業、商業等ノ如キ總

稱又ハ會社員、職工等ノ如キ略稱ヲ記入シタル者ナキヤ否ヤヲ點檢シ尙世帶ニ於ケル地位、男女ノ別及出生ノ年月日ト對照シ不相應ノ者ナキヤ否ヤヲ檢査スルコト
 農業ニ屬スル職業ニシテ自作、小作、自作兼小作ノ區別ヲ附記セザル者ナキヤ否ヤヲ檢査スルコト

七 「出生地」ハ内地ニ於テ誕生シタル者ハ道府縣名ヲ朝鮮ニ於テ誕生シタル者ハ道府郡島而名ヲ、其ノ他ノ地ニ於テ誕生シタル者ハ臺灣、樺太、南洋又ハ其ノ國名並ニ地方名ヲ記入シアルヤ否ヤヲ檢査スルコト

八 「民籍又ハ國籍」ハ氏名又ハ姓名及出生地ト對照シ檢査スルコト

九 「讀ミ書キノ程度」ハ出生ノ年月日及民籍又ハ國籍ト對照シ檢査スルコト

十 「世帶人員」ハ氏名又ハ姓名及民籍又ハ國籍ト對照シ檢査スルコト

第三回 檢査

照査表ニ世帶人員及申告書通シ番號ノ記入ヲ終リタルトキハ左ノ各號ニ就キ申告書ト照査表トヲ對照スルコト

一 世帯番號

二 準世帯ノ種類及名稱

三 世帯主又ハ世帯ノ管理者ノ氏名又ハ姓名

四 申告書通シ番號及申告書枚數

五 世帯人員

右ノ検査ヲ終了タルトキハ申告書指定ノ箇所ニ捺印スルコト(國勢調査員心得第三十條參照)

附 錄

昭和五年朝鮮國勢調査施行規則

朝鮮總督府令第八號

昭和五年朝鮮國勢調査施行規則斗如히 합左ノ通定ム

昭和五年二月二十五日

朝鮮總督 子爵齋藤實

昭和五年朝鮮國勢調査施行規則

第一條 朝鮮에 대한ニ於ケル昭和五年國勢調査合ハ同年十月一日午前零時

ニ於テ朝鮮内에ニ現在スル者한ニ付 左ノ事項ヲ調査ス

- 一 氏名合又ハ姓名七
- 二 世帯에 대한ニ於ケル地位
- 三 男女ノ別의
- 四 出生ノ年月日의
- 五 配偶ノ關係의
- 六 職業
- 七 出生地
- 八 民籍合又ハ國籍七

九 讀ミ書キノ程度하고 하는

前項ノ時期前에ニ帝國ノ港灣ヲ發シ途中寄港セズシテ前項ノ時期

後四日以内에 비로소ニ始メテ朝鮮ノ港灣ニ入りタル者ハ昭和五年十月一

日午前零時에ニ朝鮮内에ニ現在シタル者ト看做ス

第二條 前條ノ調査ハ各世帯에 대한ニ就キ之ヲ執行ス

本令ニ於テ世帯ト稱スルハ住居及家計ヲ共ニスル者ヲ謂フ

一人ニシテ住居ヲ有シ家計ヲ立ツル者亦一世帯トス

家計ヲ共ニスルモ別ニ住居ヲ有スル者又ハ住居ヲ共ニスルモ別

ニ家計ヲ立ツル者ハ一世帯トス其ノ一人ナル場合亦同ジ

寄宿舎、病院、旅店、下宿屋其ノ他家計ヲ共ニセザル者

ノ集合スル場屋又ハ船舶ニ在ル者ニシテ其ノ家計ヲ共ニセザ

ルモノハ一場屋又ハ一船舶毎ニ一世帯ニ準ズ

第三條 世帯主又ハ世帯ノ管理者ハ其ノ世帯ニ現在スル者ニ就

キ國勢調査申告書ヲ以テ第一條第一項各號ノ事項ヲ申告スルノ

義務アルモノトス

前項ノ世帯ノ管理者トハ世帯ニ於テ世帯主ナキトキ又ハ不在ナ

ルトキ事實上之ヲ管理スル者、世帯ニ在ル者ノ選定シタル者又

ハ國勢調査員ノ指定シクル者ヲ謂フ

第四條 前條第一項ノ國勢調査申告書ノ用紙ハ昭和五年九月二十

一日ヨリ同月三十日迄ノ間ニ於テ國勢調査員之ヲ各世帯ニ配付

ス

申告義務者前項ノ期間内ニ國勢調査申告書用紙ノ配付ヲ受ケ

ザルトキハ當該區域ノ擔當國勢調査員又ハ所屬府尹若ハ面長

ニ其ノ旨申出デ之ガ交付ヲ受クベシ

第五條 申告義務者ハ昭和五年十月一日午前八時迄ニ國勢調査申

告書ヲ作成シ當該區域ノ擔當國勢調査員ノ巡回ヲ待チ之ヲ提出

スベシ

第六條 昭和五年十月一日午前零時ニ帝國版圖内ニ現在シタル者

何レノ世帯ニ於テモ申告セラレザリシコトヲ知リタルトキハ

同月四日迄ニ最寄ノ府尹、面長又ハ國勢調査員ニ其ノ旨申出ツ

ベシ

第七條 道知事ハ朝鮮總督ノ命ヲ承ケ道内ノ調査ノ執行ヲ指揮監

督ス

第八條 郡守又ハ島司ハ道知事ノ命ヲ承ケ郡島内ノ調査ノ執行ヲ

指揮監督ス

第九條 府尹ハ道知事ノ指揮監督ヲ承ケ府内ノ調査ノ執行ヲ管掌

ス

第十條 面長ハ郡守又ハ島司ノ指揮監督ヲ承ケ面内ノ調査ノ執行

ヲ管掌ス

第十一條 府尹又ハ面長ハ調査ヲ執行スル爲道知事ノ認可ヲ

經テ府内ノ區域ヲ調査區ニ分割ス但シ特別ノ事情アルトキハ道

知事ノ認可ヲ經テ一面ヲ以テ一調査區ト爲スコトヲ得

第十二條 仁川、群山、木浦、釜山、鎮南浦、新義州、龍巖浦、

元山、清津、城津及雄基ノ各港ノ水面ノ調査ハ其ノ水面ヲ管轄

スル道知事直接之ヲ管掌ス

前項ノ調査ニ關シテハ道知事ハ關係官公署ノ職員及實況ニ通ジ

タル者ニ囑託シテ其ノ事務ヲ補助セシムルコトヲ得

第一項ノ調査ニ關シテハ道知事ハ朝鮮總督ノ認可ヲ經テ其ノ水

面ノ區域、調査區ノ分割及調査ニ關スル手續ヲ定ム

第十三條 國勢調査ノ事務ヲ執行セシムル爲府内ニ國勢調査員

ヲ置ク

道知事直接ニ調査ヲ管掌スル場合ニ於テハ尙道ニ國勢調査員ヲ置ク

第十四條 國勢調査員ハ道知事ノ推薦ニ依リ朝鮮總督之ヲ命ズ
國勢調査員ハ名譽職トス

第十五條 道知事ハ管内ニ於ケル國勢調査員ノ氏名又ハ姓名ヲ告示スベシ

第十六條 府尹又ハ面長ハ各調査區ノ番號、區域及擔當國勢調査員ノ氏名又ハ姓名並ニ豫備國勢調査員ノ氏名又ハ姓名ヲ告示スベシ

第十二條 第一項ノ水面ニ在リテハ道知事前項ノ告示ヲ爲スベシ

第十七條 國勢調査員ニハ別ニ定ムル徽章ヲ交付シ職務執行ノ際之ヲ佩用セシム

第十八條 國勢調査員ハ道知事、府尹又ハ面長ノ指揮監督ヲ承ケ擔當調査區内ニ於ケル國勢調査申告書用紙ノ配付、國勢調査申告書ノ蒐集其ノ他之ニ伴フ諸般ノ事務ヲ執行ス

第十九條 國勢調査員各世帯ニ就キ前條ノ職務ヲ執行スル期間ハ昭和五年九月二十一日ヨリ同年十月五日迄トス但シ蒐集シタル

國勢調査申告書ノ記載事項ニ關シ質問ヲ要スル場合ハ此ノ限り不在ラズ

第二十條 國勢調査申告書及附屬書類ハ道知事ノ定メタル期限迄ニ面長ハ郡守又ハ島司ニ、府尹郡守及島司ハ道知事ニ提出シ道知事ハ朝鮮總督ノ定メタル期限迄ニ之ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

第二十一條 天災事變ノ爲國勢調査員第十九條ノ期間内ニ其ノ職務ヲ執行シ又ハ之ヲ完結スルコト能ハザルトキハ道知事ハ直ニ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ報告スベシ此ノ場合ニ於テハ道知事ハ朝鮮總督ノ認可ヲ經テ區域ヲ限リ別ニ期間ヲ定メ又ハ其ノ期間ヲ延長ス

道知事別ニ期間ヲ定メ又ハ期間ヲ延長シタルトキハ之ヲ告示ス

第二十二條 左ニ掲グル場所ニ於ケル調査ノ手續ハ別ニ之ヲ定ム

- 一 王公族ノ殿邸
- 二 外國ノ軍艦
- 三 陸海軍ノ部隊及艦船
- 四 刑務所及留置場

第二十三條 國勢調査申告書ハ統計上ノ目的ニシテ使用シ如何ナ
境遇^ラト雖之ヲ公表スルコトヲ得ズ^ル
ル場合ト雖之ヲ公表スルコトヲ得ズ

第二十四條 國勢調査ノ事務ニ從事シタル者ハ其ノ職務執行中知
得シタル個人ニ關スル事項ヲ故ナク他ニ漏洩スベカラズ

第二十五條 國勢調査ニ際シ調査ヲ忌避シ、申告ヲ拒ミ又ハ
故意ニ不實ノ申告ヲ爲シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ
處ス申告義務者ヲシテ申告ヲ爲スコトヲ得ザラシメ又ハ不實ノ
申告ヲ爲サシメタル者亦同ジ

第二十六條 虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒテ國勢調査ヲ
妨ゲタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第二十四條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以下ノ罰
金又ハ科料ニ處ス

第二十八條 本令執行ノ爲 道府郡島ニ於テ要スル經費ノ中國
庫ハ十八萬八千五百圓ヲ限リ之ヲ道ニ交付ス
前項ノ規定ニ依リ交付スル金額ノ割合ハ別ニ之ヲ定ム

昭和五年朝鮮國勢調査特別地域 調査規則

朝鮮總督府訓令第九號

昭和五年朝鮮國勢調査特別地域調査規則左ノ通定ム

昭和五年二月二十五日

朝鮮總督 子爵齋藤實

昭利五年朝鮮國勢調査特別地域調査規則

第一條 昭利五年朝鮮國勢調査施行規則第二十二條各號ニ掲ケル
場所ニ於ケル調査ノ手續ハ本令ニ依ル

第二條 王公族ノ殿邸ニ於ケル調査ハ之ヲ李王職長官ニ委嘱ス

第三條 外國ノ軍艦ニ於ケル調査ハ外務大臣ヲ經テ其ノ司令官又
ハ艦艇長ニ之ヲ委嘱ス

第四條 朝鮮軍司令官ノ指揮下ニ在ル陸軍部隊ニ於ケル調査ハ之
ヲ朝鮮軍司令官ニ、鎮海要港部司令官ノ指揮下ニ在ル部隊及艦
船ニ於ケル調査ハ之ヲ鎮海要港部司令官ニ、其ノ他ノ帝國海軍
艦船ニ於ケル調査ハ之ヲ投錨港所屬ノ府尹、郡守又ハ島司ヨリ
當該艦船長ニ委嘱ス

朝鮮軍司令官ニ、鎮海要港部司令官ノ指揮下ニ在ル部隊及艦
船ニ於ケル調査ハ之ヲ鎮海要港部司令官ニ、其ノ他ノ帝國海軍
艦船ニ於ケル調査ハ之ヲ投錨港所屬ノ府尹、郡守又ハ島司ヨリ
當該艦船長ニ委嘱ス

前項ノ場合ニ於テ府尹、郡守又ハ烏司當該艦船長ヨリ國勢調査申告書ノ送付ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ一括シテ朝鮮總督ニ送付スベシ

第五條 刑務所ニ對シテハ刑務所ノ長、留置場ニ於ケル調査ハ警察署長之ヲ管掌シ國勢調査申告書ハ警察署長ハ昭和五年十月二日迄ニ道知事ニ、道知事及刑務所ノ長ハ同年十月三十日迄ニ朝鮮總督ニ之ヲ提出スベシ

昭和五年朝鮮國勢調査地方事務取扱規程

朝鮮總督府訓令第十二號

昭和五年朝鮮國勢調査地方事務取扱規程左ノ通定ム

昭和五年三月二十二日

朝鮮總督 子爵齋藤實

昭和五年朝鮮國勢調査地方事務取扱規程

第一章 道

一條 道知事ハ道ニ臨時國勢調査部ヲ設ケ管内ニ於ケル國勢調査ノ事務ヲ處理セシムベシ

第二條 臨時國勢調査部ニハ部長一人副部長一人ヲ置キ部長ハ内務部長ヲシテ之ニ當ラシメ副部長ハ道理事官中ヨリ道知事ヲ命ズベシ

道知事ハ前項ノ職員ノ外道職員中ヨリ臨時國勢調査部委員及部員ヲ命ズベシ

第三條 道知事ハ昭和五年四月三十日迄ニ府尹、郡守、烏司又ハ府郡島ノ國勢調査事務主務者ヲ道ニ召集シ國勢調査事務ニ關スル指示打合ヲ爲スベシ

第四條 道知事府面ノ調査區ノ設定ヲ認可シタルトキハ直ニ府面別調査區數ヲ朝鮮總督ニ報告スベシ

第五條 道知事ハ調査區ノ實況ニ道ジ國勢調査員タルニ適當ナル者ヲ内申スベシ

第六條 道ニ於テ調査事務ニ要スル印刷物、國勢調査員辭令及徽章ハ相當ノ豫備數ヲ加ヘテ朝鮮總督之ヲ道知事ニ交付ス

道知事前項ノ交付ヲ受ケタルトキハ府郡島所要ノ分ハ昭和五年七月三十日迄ニ之ヲ府尹、郡守又ハ烏司ニ交付スベシ

第七條 道知事ハ府尹、郡守又ハ烏司ヨリ第十四條及第二十一條

の報告ヲ受ケタル時ニ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ報告スベシ

昭和五年朝鮮國勢調査施行規則(以下單ニ規則ト稱ス)第十二條

第一項ノ規定ニ依リ水面ノ調査ヲ管轄スル道知事國勢調査申告書ノ蒐集ヲ完了シタルトキ亦同ジ

第八條 道知事ハ府尹、郡守又ハ島司ヨリ提出シタル調査書類ヲ

検査シ府郡島要計表(附錄様式第二、第三)及特別水面要計表(附錄様式第四)ニ依リ道要計表(附錄様式第一)ヲ作成シ道要計

表、府郡島要計表及特別水面要計表ハ昭和五年十一月三十日

ニ、其ノ他ノ調査書類ハ同年十二月十日迄ニ之ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

第九條 規則第二十一條ノ規定ニ依ル報告ハ電報ヲ以テ之ヲ爲ス

第十條 郡守又ハ島司ハ郡島職員中ヨリ國勢調査事務ノ從事員ヲ

命ジ國勢調査ノ事務ヲ處理セシムベシ

郡守又ハ島司ハ前項ノ從事員中ヨリ主務者一名ヲ命ズベシ

第二章 郡 島

第十一條 郡守又ハ島司ハ昭和五年五月二十日迄ニ面國勢調査事務主務者ヲ郡島ニ招集シ國勢調査事務ニ關スル指示打合ヲ爲ス

第十二條 郡守又ハ島司ハ適當ナル方法ニ依リ其ノ管内ニ於ケル

國勢調査事務ノ指導監督ヲ爲スベシ

第十三條 郡島ニ於テ調査事務ニ要スル印刷物、國勢調査員辭令

及徽章ハ道知事ヨリ郡守又ハ島司ニ交付シ面所要ノ分ハ郡守又

ハ島司ヨリ更ニ面長ニ交付スベシ

第十四條 郡守又ハ島司ハ面長ヨリ第二十一條ノ報告ヲ受ケタ

ルトキハ面長ニ直ニ其ノ旨ヲ道知事ニ報告スベシ

第十五條 郡守又ハ島司ハ面長ヨリ提出シタル調査書類ヲ検査

シ面要計表(附錄様式第三)ニ依リ郡島要計表ヲ作成シ調査書類

ト共ニ道知事ノ定メタル期間迄ニ之ヲ道知事ニ進達スベシ

前項ノ進達書類ハ紛失毀損ヲ防グ爲メ發送ニ際シ包裝及選

送方法ノ完全ヲ期スベシ

第十六條 天災事變ノ爲メ規則第十九條ノ期間内ニ調査ヲ完了

スルコト能ハザルトキハ郡守又ハ島司ハ直ニ其ノ旨ヲ道知事ニ

報告スベシ

電報 스페시 함이可함

第三章 府 面

第一節 總 則

第十七條 國勢調査ニ關スル府尹又ハ面長ノ職務ハ左ノ如シ

一 調査區ノ設定

二 國勢調査員ノ詮衡

三 調査區擔當者ノ指定

四 國勢調査員ノ訓練

五 準備調査

六 申告書用紙ノ交付

七 調査事務ノ指導監督、申告書及照査表ノ檢査

八 府面要計表ノ作成、申告書及照査表ノ整理並ニ以上ノ書類

ノ提出

九 以上ノ附帶事務

第十八條 府尹又ハ面長ハ府面ノ職員中ヨリ國勢調査事務ノ從事

員ヲ命ジ國勢調査ノ事務ヲ處理セシムベシ

府尹又ハ面長ハ前項ノ從事員中ヨリ主務者一名ヲ命ズベシ

第十九條 府尹又ハ面長ハ適當ノ方法ニ依リ管内ニ國勢調査ノ趣旨ノ普及ヲ圖ルベシ

第二十條 調査事務ニ要スル印刷物、國勢調査員辭令及徽章ハ府

面長ニ之ヲ交付ス

前項ノ交付ヲ受ケタルトキハ府尹又ハ面長ハ指定ノ期日迄ニ之

ヲ國勢調査員ニ交付シ配付簿ニ其ノ種類及數量ヲ記入シ受領者

ノ印ヲ徴シテ授受ノ證ト爲スベシ

第二十一條 府尹又ハ面長ハ府面ノ國勢調査申告書ノ蒐集ヲ完了

シタルトキハ府尹ハ道知事ニ、面長ハ郡守又ハ島司ニ直ニ其ノ

旨ヲ報告スベシ

第二十二條 天災事變ノ爲規則第十九條ノ期間内ニ調査ヲ完

了スルコト能ハザルトキハ直ニ其ノ旨ヲ府尹ハ道知事ニ、面長

ハ郡守又ハ島司ニ報告スベシ

第二節 調査區ノ設定

第二十三條 府尹又ハ面長ハ左ノ各號ニ依リ管内ヲ分割シテ調査

區ヲ設定シ昭和五年六月十日迄ニ道知事ノ認可ヲ申請スベシ

一 調査區ハ一調査員一日中ニ區内ニ於ケル各世帯ノ申告書ノ

蒐集ヲ完結シ得ル程度トシ大要一調査區ハ八十世帯ヲ標準

トスルモ人家稠密ナル地域ニ在リテハ最高百五十世帯ノ程度

ニ分割シ其ノ稀薄ナル地域ニ在リテハ標準世帯數以下ニ分割

スル等適宜設定スルコト但シ水面ハ其ノ狀況ニ依リ右ノ標準

世帯數ニ拘ラズ船舶數ニ應ジ陸地ト分離シテ適宜調査區ヲ設

定スルコトヲ得

二 調査區ノ區域ハ成ルベク町洞里等地理上獨立ノ稱呼ヲ有ス

ル區域ニ依リ、之ニ依リ難キトキハ山岳、丘陵、河川、溝渠

道路、墻壁、鐵道、電信電話線等ヲ以テ境界ト爲スコト

三 寄宿舎、病院、旅店、下宿屋等多數ノ人員集合住居スル官

公私ノ場屋ハ其ノ人員ニ應ジテ調査區ヲ設定スルコト

四 特別ノ事情ニ依リ分割セザルヲ便トスル場合ニ於テハ一面

ヲ以テ一調査區ト爲スコト

第二十四條 府尹又ハ面長調査區ヲ設定スルニハ其ノ府面ノ區域

ニ屬スル陸上及水面ニ重複又ハ脱漏ナキヲ期スベシ

第二十五條 調査區設定ノ認可申請書ニハ調査區ノ番號、區域、

世帯概數及人口概數ヲ記シ調査區ニ分割 面略圖ヲ添附

スベシ

調査區番號ハ府面毎ニ一號ヨリ始ムベシ

第三節 國勢調査員ノ詮衡

第二十六條 府尹又ハ面長ハ調査區内ノ事情ニ通ジタル公務員

公共團體ノ職員其ノ他國勢調査員トシテ適當ナリト認ムル者ヲ

選定シ其ノ氏名又ハ姓名、職業、住所及年齡ヲ具シ府尹ハ道知

事ニ、面長ハ郡守又ハ島司ヲ經テ道知事ニ内申スベシ

前項ノ規定ニ依リ選定スベキ員數ハ管内ノ調査區ニ於ケル調査

ヲ擔當スベキ國勢調査員數ニ其ノ二割ヲ加ヘタル員數トス

第四節 調査區擔當者ノ指定

第二十七條 一調査區ノ調査ハ一人ノ國勢調査員之ヲ擔當スルモ

ノトス但シ水面ノ調査其ノ他特別ノ事情アル場合ニ於テハ二人

以上ノ國勢調査員ヲシテ一調査區ノ調査ヲ擔當セシムルコト

第二十八條 國勢調査員ノ任命アリタルトキハ府尹又ハ面長ハ各

國勢調査員ノ擔當調査區ヲ定メ辭令及徽章ニ照査表ヲ添ヘ昭和

五年八月三十日迄ニ之ヲ本人ニ交付スベシ但シ調査區ヲ擔當セ
ハザル國勢調査員ニハ照査表ヲ交付セズ豫備員タル旨ヲ通知
スベシ

第二十九條 國勢調査員ニ交付スベキ照査表ハ一人ニ付二通
トシ府尹又ハ面長ハ豫メ各通指定ノ箇所ニ道府郡島面名、調
査區番號、調査區域、國勢調査員氏名又ハ姓名ヲ記入シ府面名
ノ下ニ其ノ印ヲ捺捺スベシ

第三十條 國勢調査員疾病其ノ他已ムヲ得ザル事故ノ爲調査ニ
從事シ難キトキハ府尹又ハ面長ハ直ニ豫備員ヲシテ之ニ代ラ
シメ其ノ旨ヲ告示スベシ

前項ノ場合ニ於テハ府尹又ハ面長ハ照査表其ノ他一切ノ印刷物
及書類ヲ回收シ國勢調査員ノ氏名又ハ姓名ヲ書換ヘ新擔當國勢
調査員ニ之ヲ交付スベシ

第五節 國勢調査員ノ訓練

第三十一條 府尹又ハ面長ハ國勢調査員ノ擔當調査區ヲ指定シタ
ル後速ニ國勢調査員ヲ招集シ國勢調査員必携一部及照査表用紙
申告書用紙各一枚ヲ交付シ且國勢調査員ノ心得ベキ要項ヲ指示

ハザル國勢調査員ニハ照査表ヲ交付セズ豫備員タル旨ヲ通知
スベシ

第三十二條 府尹又ハ面長ハ適當ノ時期ニ於テ國勢調査員ヲ招集
シ調査事務ノ打合又ハ協議ヲ爲スベシ

第三十三條 府尹又ハ面長ハ國勢調査員ノ職務上ノ參考ト爲ルベ
キ地圖其ノ他ノ書類ヲ國勢調査員ニ示スベシ

第六節 準備調査

第三十四條 府尹又ハ面長ハ調査期日ニ先チ期間ヲ定メ國勢調査
員ヲシテ其ノ擔當調査區ノ各世帯ニ就キ準備調査ヲ爲サシム
可シ

第三十五條 府尹又ハ面長ハ準備調査ニ際シ調査區内ノ世帯概數
ニ應ジ世帯番號札ヲ國勢調査員ニ交付スベシ

第三十六條 府尹又ハ面長ハ準備調査ニ際シ管内各調査區ヲ巡回
シ又ハ當該職員ヲシテ巡回セシメ左ノ各號ニ依リ準備調査ノ
執行ヲ監視シ調査ニ重複、脱漏及誤謬ナキヲ期スベシ

一 普通世帯ト準世帯トノ區別正當ナリヤ
二 一棟ノ住家中ニ在ル數世帯、普通ニ人ノ住居セザル建物
等ニ在ル世帯及附屬建物ニ在ル世帯等ニ世帯番號札ノ貼附漏

ハザル國勢調査員ニハ照査表ヲ交付セズ豫備員タル旨ヲ通知
スベシ

落되지 안 이 한 가
ナキヤ

三 住家密集スル場合又ハ遠距離ニ點在スル世帯ニ對シ世帯番

號札貼附ノ重複シタルモノ又ハ漏レタルモノナキヤ

四 世帯番號札ハ調査ノ順路ニ從ヒ貼附シアリヤ

五 世帯主又ハ世帯ノ管理者正當ナリヤ

六 其ノ他必要ナル事項

第三十七條 國勢調査員準備調査後照査表ヲ提示シタルトキハ府

尹又ハ面長ハ之ヲ檢査シ調査ニ重複、脱漏又ハ誤謬ノ疑アルト

キハ之ヲ國勢調査員ニ質シ照査表ノ訂正ヲ命ジ必要ト認

ハ時ニ再調査ヲ命ズベシ

第七節 申告書用紙ノ交付

第三十八條 府尹又ハ面長前條ノ檢査ヲ終リタルトキハ照査表ヲ

還付スルト同時ニ各世帯ニ配付スベキ申告書用紙ヲ國勢調査員

ニ交付スベシ

前項國勢調査員ニ交付スベキ申告書用紙ノ枚數ハ照査表ニ記入

シアル世帯ニ配付スベキ枚數ニ百分ノ十ノ豫備ヲ加ヘタルモノ

トス

第三十九條 府尹又ハ面長前條ノ交付ヲ終リタルトキハ直ニ交付

總數及殘餘ノ數ヲ府尹ハ道知事ニ、面長ハ郡守又ハ島司ニ報告

スベシ

殘餘ナキトキ又ハ殘餘アルモ交付總數ノ百分ノ五ニ滿タザルト

キハ其ノ旨ヲ併セテ報告スベシ

第四十條 申告書用紙ノ交付ニ際シ不足ヲ生ジタルトキハ府

尹ハ道知事ニ、面長ハ郡守又ハ島司ニ請求シテ其ノ補給ヲ受

ケ速ニ之ヲ國勢調査員ニ交付スベシ

第四十一條 世帯又ハ世帯員増加等ノ爲ニ申告書用紙ニ不足ヲ

生ジタル國勢調査員ヨリ補給ノ請求アリタルトキハ府尹又ハ面長

ハ豫備ノ中ヨリ之ヲ交付スベシ

府尹又ハ面長其ノ有スル豫備數交付總數ノ百分ノ三ヲ下リタル

トキハ之ヲ補給ヲ府尹ハ道知事ニ、面長ハ郡守又ハ島司ニ請求

スベシ

豫備數缺乏セル場合ニ於テ即時補給ヲ要スルトキハ府尹又ハ面

長ハ他ノ國勢調査員ノ有スル豫備ノ中ヨリ回收シテ之ヲ交付ス

ベシ

第四十二條 國勢調査員ニ交付スル申告書用紙ニハ府尹又ハ面長ハ指定ノ箇所ニ調査區番號及道府郡島面名ヲ記入スベシ
前條第三項ノ規定ニ依リ申告書用紙ヲ回收シテ交付スル場合ニハ調査區番號其ノ他ニ必要ナル訂正ヲ爲スベシ

第八節 調査事務ノ指導監督、申告書及照査表ノ検査

第四十三條 府尹又ハ面長ハ申告書ノ蒐集ニ際シ管内各調査區ヲ巡回シ又ハ當該職員ヲシテ巡回セシメ左ノ各號ニ依リ實地ニ就キ指揮監督シ調査ニ重複、脱漏及誤謬ナキヲ期スベシ

- 一 國勢調査員ノ出勤完全ナリヤ
- 二 申告書ノ蒐集ハ順序ニ依リ行ハレツツアリヤ
- 三 準備調査後ノ世帯又ハ世帯員ノ異動ニ就キ調査漏ナキヤ
- 四 申告書記入方ニ誤謬ナキヤ
- 五 其ノ他必要ナル事項

第四十四條 國勢調査員申告書ノ蒐集ヲ終リ申告書、照査表及照査表寫ヲ提出シタルトキハ府尹又ハ面長ハ之ヲ検査スベシ

第四十五條 前條ノ規定ニ依ル検査ノ結果申告書又ハ照査表及照査表寫ノ記入ニ重複、脱漏、誤謬ヲ發見シ又ハ不明ナル文字

アリタルトキハ府尹又ハ面長ハ國勢調査員ヲシテ之ヲ訂正セシムベシ

前項ノ申告書ニシテ訂正シ能ハザルモノニ在リテハ國勢調査員ヲシテ淨寫セシメ申告書指定ノ箇所ニ其ノ氏名又ハ姓名ヲ記入シ原書左上部ニ「淨寫濟」ト附記セシムベシ

第四十六條 府尹又ハ面長ハ検査ノ結果調査漏ノ世帯アリト認メタルトキハ國勢調査員ヲシテ之ガ調査ヲ爲サシメ既ニ調査ヲ經タル世帯ニ關シ必要ト認メタルトキハ再調査ヲ爲サシムベシ

第四十七條 府尹又ハ面長ハ申告書、照査表及照査表寫ノ検査訂正ヲ終リタルトキハ照査表及照査表寫指定ノ箇所ニ捺印スベシ

第九節 府面要計表ノ作成、申告書及照査表ノ整理

第四十八條 府尹又ハ面長前數條ノ手續ヲ終リタルトキハ照査表ニ依リ府面要計表二通ヲ作成スベシ

府面要計表ノ作成ハ府面要計表用紙ヲ用ヒ調査區番號ノ順序ニ從ヒ照査表ニ依リ一調査區毎ニ調査區番號、申告書ノ通數及世

帶人員ヲ記入シ次ニ申告書ノ通數及世帶人員ノ各合計ヲ算出記入スルモノトス但シ用紙二枚以上ヲ用ヒタルトキハ一枚毎ニ小計ヲ、最終ノ用紙ニ合計ヲ記入シ且各用紙指定ノ箇所ニ順次其ノ枚數及號數ヲ記入スベシ

前項ノ場合ニ於テ照査表ニ依リ記入シタル數字ハ必ズ照査表ト對照シ且小計及合計ハ更ニ檢算スベシ

第四十九條 府尹又ハ而長前條ノ手續ヲ終リタルトキハ府面要計表指定ノ箇所ニ日附ヲ記入シ記名捺印スベシ但シ用紙二枚以上ヲ用ヒタルトキハ最終ノ用紙ニ日附ヲ記入シ記名捺印スベシ

第五十條 府尹又ハ而長府面要計表ノ作成ヲ終リタルトキハ左ノ手續ヲ爲スベシ
一 各調査區ノ申告書ヲ照査表ニ對照シ通數及枚數ヲ檢査シ申告書通シ番號順ニ重ネ一調査區毎ニ一括トスルコト但シ國勢調査員ノ淨寫シタル申告書アルトキハ淨寫ノ分ヲ括中ニ入レ淨寫濟原書ハ之ヲ除キ置クベシ

二 各調査區ノ申告書括ヲ府面要計表ニ對照シ調査區番號順ニ整理シ重ネ府面全部ヲ一括トスルコト但シ一府面分ヲ一括ト爲シ難キ場合ハ便宜分割シ、何府面何括ノ内第何號ト記入セラル

ヲ附スベシ

三 府面要計表指定ノ箇所ニ申告書ノ括數ヲ記入スルコト

四 照査表ヲ調査區番號順ニ重ネ府面要計表一通ヲ添ヘ一綴トスルコト

五 照査表寫ヲ調査區番號順ニ重ネ府面要計表ノ他ノ一通ヲ添ヘ一綴トスルコト

第五十一條 府尹又ハ而長ハ申告書括及府面要計表照査表綴ヲ取續メ道知事ノ定メタル期限迄ニ之ヲ府尹ハ道知事ニ、而長ハ郡守又ハ島司ニ提出スベシ

前條第五號ノ府面要計表照査表寫綴及同條第一號但書ノ淨寫濟原書ハ次回國勢調査ノ時期迄府尹又ハ而長之ヲ保存スベシ

第五十二條 府尹又ハ而長ハ進達調査書類ノ紛失毀損ヲ防グ爲其ノ發送ニ際シ特ニ包裝及遞送方法ノ完全ヲ期スベシ

第五十三條 府尹又ハ而長ハ調査書類提出後ト雖該書類ノ記入事項ニ關シ監督官應ヨリ照會アリタルトキハ保存書類ニ依リ又ハ國勢調査員タリシ者ニ質問或ハ實地ニ就キ調査シ速ニ答申スベシ

可

道 名

道 要 計 表

(附録様式第

| 府 郡 島 名 (守郡島名ハ地方行政区域ノ 頁序ニ依リ記入スルコト) | 面數 | 申告書 括 數 | 申告書 通 數 | 世 帯 人 員 | | | | | | | | | | | | | |
|--|----|------------|------------|---------|---|-------|---|-----|---|-------|---|-----|---|-----|---|--|--|
| | | | | 日 本 人 | | | | | | 外 國 人 | | | | 合 計 | | | |
| | | | | 内 地 人 | | 朝 鮮 人 | | 其ノ他 | | 支那人 | | 其ノ他 | | 男 | 女 | | |
| | | | | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(表 面)

18行

大サ申告書ト同型

赭色刷

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 一通一枚ナルトキハ合計 ノミヲ記入シ一通二枚以 上ナルトキハ一枚毎ニ小 計ヲ記入シ最終ノ用紙ニ 合計ヲ算出記入スルコト | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |

昭和五年 月 日

道 知 事

郡名

郡島要計表

(附錄様式第二)

| 名 行政 地方 ハ ノ 順序 入 スル コト | 申告書 括 数 | 申告書 通 数 | 世帯人員 | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---------------|---------------|------|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|---|---|----|---|---|---|
| | | | 日本 | | | | | | 外國 | | | | | | 合計 | | | |
| | | | 内地人 | | 朝鮮人 | | 其ノ他 | | 支那人 | | 其ノ他 | | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| | | | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 計 | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

27行

大サ申告書ト同型

赭色刷

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | | | | | | | | | | | | | | | | |

道知事
檢印



昭和五年 月 日

郡守又ハ島司

府 面 要 計 表

(附録様式第三)

| | | | |
|------------------|-------|---|---|
| 道 府 郡 面 島 面 名 | 申告書括數 | 括 | 枚ノ内第 (此ノ用紙二枚以上ヲ用ヒタルトキ、 上ノ記入ヲ爲スコト) |
|------------------|-------|---|---|

| 調査區番號 (番號ノ順序ニ依 リ記入スルコト) | 申告書 通數 | 世 帯 人 員 | | | | | | | | | | 合 | | | | |
|-------------------------------|-----------|---------|-------|-----|-------|-----|-------|---|---|---|---|---|---|---|--|--|
| | | 日 本 人 | | | | | 外 國 人 | | | | | | | | | |
| | | 内 地 人 | 朝 鮮 人 | 其ノ他 | 支 那 人 | 其ノ他 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | | |
| 第 號 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 號 | | | | | | | | | | | | | | | | |

3 2 行

大サ 申告書ト 同型
赭 色 刷

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 第 號 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 號 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ト 十 ト 十 ト | 一 通 一 枚 ナル ト キ ハ 合 計 ノ ト ヲ 記 入 ス ト キ ハ 一 枚 毎 ニ 小 計 ヲ 記 入 ス ル コ ト | | | | | | | | | | | | | | | | |

道 知 事
郡 守 檢 印
島 司



昭和五年 月 日

府 尹 又 ハ 面 長

用紙

道 及
港 灣 名

特別水面要計表

(附錄様式第)

| 調査區番號 (番號ノ順序ニ依 リ記入スルコト) | 申告書 通 數 | 世 帯 人 員 | | | | | | | | | | 合 | | | | | |
|-------------------------------|------------|---------|-------|-----|-------|-----|-------|---|---|---|---|---|---|---|--|--|--|
| | | 日 本 人 | | | | | 外 國 人 | | | | | | | | | | |
| | | 内 地 人 | 朝 鮮 人 | 其ノ他 | 支 那 人 | 其ノ他 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | | | |
| 第 號 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 號 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 號 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合 計 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

30行
大サ申告書ト同型
赭色刷

昭和五年 月 日

道 知 事

年號及年齡早見表

| 數へ年 | 干支 | 生 | | | | 數へ年 | 干支 | 生 | | | | | |
|-----|--------------------------|---------------|---|----|---------|------|------|-------------------------|----------------|---|----|--------------|------|
| | | 帝 | 國 | 朝鮮 | 支那 | | | 西紀 | 帝 | 國 | 朝鮮 | 支那 | 西紀 |
| 一歲 | 庚午 <small>かのえうま</small> | 昭和五年 | | | 中華民國十九年 | 一九三〇 | 十二歲 | 己未 <small>つちのうし</small> | 大正八年 | | | 中華民國八年 | 一九一九 |
| 二歲 | 己巳 <small>つちのまみ</small> | 昭和四年 | | | 中華民國十八年 | 一九二九 | 十三歲 | 戊午 | 大正七年 | | | 中華民國七年 | 一九一八 |
| 三歲 | 戊辰 <small>つちのえたつ</small> | 昭和三年 | | | 中華民國十七年 | 一九二八 | 十四歲 | 丁巳 | 大正六年 | | | 中華民國六年 | 一九一七 |
| 四歲 | 丁卯 <small>ひのさう</small> | 昭和二年 | | | 中華民國十六年 | 一九二七 | 十五歲 | 丙辰 | 大正五年 | | | 中華民國五年 | 一九一六 |
| 五歲 | 丙寅 <small>ひのえごら</small> | 昭和元年 大正十五年 | | | 中華民國十五年 | 一九二六 | 十六歲 | 乙卯 | 大正四年 | | | 中華民國四年 | 一九一五 |
| 六歲 | 乙丑 <small>きのごうし</small> | 大正十四年 | | | 中華民國十四年 | 一九二五 | 十七歲 | 甲寅 | 大正三年 | | | 中華民國三年 | 一九一四 |
| 七歲 | 甲子 <small>きのえね</small> | 大正十三年 | | | 中華民國十三年 | 一九二四 | 十八歲 | 癸丑 | 大正二年 | | | 中華民國二年 | 一九一三 |
| 八歲 | 癸亥 <small>きのえか</small> | 大正十二年 | | | 中華民國十二年 | 一九二三 | 十九歲 | 壬子 | 大正元年 明治四十五年 | | | 中華民國元年 | 一九一二 |
| 九歲 | 壬戌 <small>きのえいね</small> | 大正十一年 | | | 中華民國十一年 | 一九二二 | 二十歲 | 辛亥 | 明治四十四年 | | | 宣統三年 | 一九一一 |
| 十歲 | 辛酉 <small>かのしんとり</small> | 大正十年 | | | 中華民國十年 | 一九二一 | 二十一歲 | 庚戌 | 明治四十三年 | | | 宣統二年 | 一九一〇 |
| 十一歲 | 庚申 <small>かのてんさつ</small> | 大正九年 | | | 中華民國九年 | 一九二〇 | 二十二歲 | 己酉 | 明治四十二年 | | | 隆熙三年 宣統元年 | 一九〇九 |

| | | | | | | | | | | | |
|------|----|--------|------|--------|------|------|----|--------|--------|--------|------|
| 三十四歲 | 丁酉 | 明治三十年 | 光武元年 | 光緒二十三年 | 一八九七 | 四十六歲 | 乙酉 | 明治十八年 | 開國四十四年 | 光緒十一年 | 一八八五 |
| 三十三歲 | 戊戌 | 明治三十一年 | 光武二年 | 光緒二十四年 | 一八九八 | 四十五歲 | 丙戌 | 明治十九年 | 開國四十五年 | 光緒十二年 | 一八八六 |
| 三十二歲 | 己亥 | 明治三十二年 | 光武三年 | 光緒二十五年 | 一八九九 | 四十四歲 | 丁亥 | 明治二十年 | 開國四十六年 | 光緒十三年 | 一八八七 |
| 三十一歲 | 庚子 | 明治三十三年 | 光武四年 | 光緒二十六年 | 一九〇〇 | 四十三歲 | 戊子 | 明治二十一年 | 開國四十七年 | 光緒十四年 | 一八八八 |
| 三十歲 | 辛丑 | 明治三十四年 | 光武五年 | 光緒二十七年 | 一九〇一 | 四十二歲 | 己丑 | 明治二十二年 | 開國四十八年 | 光緒十五年 | 一八八九 |
| 二十九歲 | 壬寅 | 明治三十五年 | 光武六年 | 光緒二十八年 | 一九〇二 | 四十一歲 | 庚寅 | 明治二十三年 | 開國四十九年 | 光緒十六年 | 一八九〇 |
| 二十八歲 | 癸卯 | 明治三十六年 | 光武七年 | 光緒二十九年 | 一九〇三 | 四十歲 | 辛卯 | 明治二十四年 | 開國五十年 | 光緒十七年 | 一八九一 |
| 二十七歲 | 甲辰 | 明治三十七年 | 光武八年 | 光緒三十年 | 一九〇四 | 三十九歲 | 壬辰 | 明治二十五年 | 開國五十一年 | 光緒十八年 | 一八九二 |
| 二十六歲 | 乙巳 | 明治三十八年 | 光武九年 | 光緒三十一年 | 一九〇五 | 三十八歲 | 癸巳 | 明治二十六年 | 開國五十二年 | 光緒十九年 | 一八九三 |
| 二十五歲 | 丙午 | 明治三十九年 | 光武十年 | 光緒三十二年 | 一九〇六 | 三十七歲 | 甲午 | 明治二十七年 | 開國五十三年 | 光緒二十年 | 一八九四 |
| 二十四歲 | 丁未 | 明治四十年 | 隆熙元年 | 光緒三十三年 | 一九〇七 | 三十六歲 | 乙未 | 明治二十八年 | 開國五十四年 | 光緒二十一年 | 一八九五 |
| 二十三歲 | 戊申 | 明治四十一年 | 隆熙二年 | 光緒三十四年 | 一九〇八 | 三十五歲 | 丙申 | 明治二十九年 | 建陽元年 | 光緒二十二年 | 一八九六 |
| 數(年) | 干支 | 帝國 | 朝鮮 | 支那 | 西紀 | 數(年) | 干支 | 帝國 | 朝鮮 | 支那 | 西紀 |
| | | 生 | | 年 | | | | 生 | | 年 | |

| | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 四十七歲 | 四十八歲 | 四十九歲 | 五十歲 | 五十一歲 | 五十二歲 | 五十三歲 | 五十四歲 | 五十五歲 | 五十六歲 | 五十七歲 | 五十八歲 | 五十九歲 |
| 甲申 | 癸未 | 壬午 | 辛巳 | 庚辰 | 己卯 | 戊寅 | 丁丑 | 丙子 | 乙亥 | 甲戌 | 癸酉 | 壬申 |
| 明治十七年 | 明治十六年 | 明治十五年 | 明治十四年 | 明治十三年 | 明治十二年 | 明治十一年 | 明治十年 | 明治九年 | 明治八年 | 明治七年 | 明治六年 | 明治五年 |
| 開國四九年 | 開國四九年 | 開國四九年 | 開國四九年 | 開國四九年 | 開國四八年 | 開國四七年 | 開國四六年 | 開國四五年 | 開國四四年 | 開國四三年 | 開國四二年 | 開國四二年 |
| 光緒十年 | 光緒九年 | 光緒八年 | 光緒七年 | 光緒六年 | 光緒五年 | 光緒四年 | 光緒三年 | 光緒二年 | 光緒元年 | 同治十三年 | 同治十二年 | 同治十一年 |
| 一八八四 | 一八八三 | 一八八二 | 一八八一 | 一八八〇 | 一八七九 | 一八七八 | 一八七七 | 一八七六 | 一八七五 | 一八七四 | 一八七三 | 一八七二 |
| 六十歲 | 六十一歲 | 六十二歲 | 六十三歲 | 六十四歲 | 六十五歲 | 六十六歲 | 六十七歲 | 六十八歲 | 六十九歲 | 七十歲 | 七十一歲 | 七十二歲 |
| 辛未 | 庚午 | 己巳 | 戊辰 | 丁卯 | 丙寅 | 乙丑 | 甲子 | 癸亥 | 壬戌 | 辛酉 | 庚申 | 己未 |
| 明治四年 | 明治三年 | 明治二年 | 明治元年 | 慶應三年 | 慶應二年 | 慶應元年 | 元治元年 | 文久三年 | 文久二年 | 文久元年 | 萬延元年 | 安政六年 |
| 開國四八年 | 開國四七年 | 開國四七年 | 開國四七年 | 開國四七年 | 開國四七年 | 開國四七年 | 開國四七年 | 開國四七年 | 開國四七年 | 開國四七年 | 開國四九年 | 開國四八年 |
| 同治十年 | 同治九年 | 同治八年 | 同治七年 | 同治六年 | 同治五年 | 同治四年 | 同治三年 | 同治二年 | 同治元年 | 咸豐十一年 | 咸豐十年 | 咸豐九年 |
| 一八七一 | 一八七〇 | 一八六九 | 一八六八 | 一八六七 | 一八六六 | 一八六五 | 一八六四 | 一八六三 | 一八六二 | 一八六一 | 一八六〇 | 一八五九 |

| | | | | | | | | | | | |
|------|----|-------|-------|-------|------|------|----|-------|-------|--------|------|
| 百八歲 | 癸未 | 文政六年 | 開國四三年 | 道光三年 | 一八二三 | 百二十歲 | 辛未 | 文化八年 | 開國四〇年 | 嘉慶十六年 | 一八一 |
| 百七歲 | 甲申 | 文政七年 | 開國四三年 | 道光四年 | 一八二四 | 百十九歲 | 壬申 | 文化九年 | 開國四二年 | 嘉慶十七年 | 一八一 |
| 百六歲 | 乙酉 | 文政八年 | 開國四四年 | 道光五年 | 一八二五 | 百十八歲 | 癸酉 | 文化十年 | 開國四三年 | 嘉慶十八年 | 一八一 |
| 百五歲 | 丙戌 | 文政九年 | 開國四五年 | 道光六年 | 一八二六 | 百十七歲 | 甲戌 | 文化十一年 | 開國四三年 | 嘉慶十九年 | 一八一 |
| 百四歲 | 丁亥 | 文政十年 | 開國四六年 | 道光七年 | 一八二七 | 百十六歲 | 乙亥 | 文化十二年 | 開國四四年 | 嘉慶二十年 | 一八一 |
| 百三歲 | 戊子 | 文政十一年 | 開國四七年 | 道光八年 | 一八二八 | 百十五歲 | 丙子 | 文化十三年 | 開國四五年 | 嘉慶二十一年 | 一八一 |
| 百二歲 | 己丑 | 文政十二年 | 開國四八年 | 道光九年 | 一八二九 | 百十四歲 | 丁丑 | 文化十四年 | 開國四六年 | 嘉慶二十二年 | 一八一 |
| 百一歲 | 庚寅 | 天保元年 | 開國四九年 | 道光十年 | 一八三〇 | 百十三歲 | 戊寅 | 文政元年 | 開國四七年 | 嘉慶二十三年 | 一八一 |
| 百歲 | 辛卯 | 天保二年 | 開國四〇年 | 道光十一年 | 一八三一 | 百十二歲 | 己卯 | 文政二年 | 開國四八年 | 嘉慶二十四年 | 一八一 |
| 九十九歲 | 壬辰 | 天保三年 | 開國四一年 | 道光十二年 | 一八三二 | 百十一歲 | 庚辰 | 文政三年 | 開國四九年 | 嘉慶二十五年 | 一八二〇 |
| 九十八歲 | 癸巳 | 天保四年 | 開國四二年 | 道光十三年 | 一八三三 | 百十歲 | 辛巳 | 文政四年 | 開國四〇年 | 道光元年 | 一八二 |
| 九十七歲 | 甲午 | 天保五年 | 開國四三年 | 道光十四年 | 一八三四 | 百九歲 | 壬午 | 文政五年 | 開國四二年 | 道光二年 | 一八二 |